

## 飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 375 回 短所は見つかるもの、長所は見つけるもの

2010.7.25

最近どうも、イライラしたり、ツンケンしたり...たぶん自分の心が荒(すさ)んでいるのだろうか、人の短所ばかりが目立って仕方がない。そんな時決まって、タバコの吸殻で、灰皿に山が出来ている。

**人の欠点ばかりを考えていると、自分の頭の中で相手をどんどん悪人にしてしまう。**

その人に対する悪感情は自分の言動に自ずと表れ、相手にも伝わるに違いない。

結果、相手の応対をさらに悪いものにしてしまう。

こんな因果はつまり、「相手のせい」だけでなく「自分のせい」でもあること、冷静になると解るものである。

松下村塾の吉田寅次郎(松陰)があれだけの人材を世に送り出すことができたのは、彼が人の長所を見つける達人だったからだ...という話を聞いたことがある。

自分が長州藩随一の秀才であっても、自分のことは一切自慢せず、人の長所ばかりをいっていたらしい。

**短所は自然に目につくけど、長所は意識しないと見つからない。**

だから、長所を探す努力を怠ってはならない。

どんな人にも必ずいい所があるのだと思う。「この人にはこういういい所もある」と解れば、相手から受ける感じ方も変わるはず。

そうすれば、自分の相手に対する態度も自ずと変わり、それが相手に伝わり、相手が良い方にも変わることもある。そのほうが結局、自分のためにも良いに決まっている。

**人の長所を見つけるには、自分を捨てなければ目が曇る。**

自分を捨てるということは、つまり、自分を受け入れることのパラドックス(paradox)である。

自分を受け入れられないなら、他人の価値も見えっこない。

現在の自分、つまり等身大の自分を受け入れた人間だけが 他人を受け入れることができる。

「俺のほうがまだマシだ」「こんなことも出来ないのか」...そんな『上から目線』がある限り、素直に相手を理解することは出来ない。

司馬遼太郎氏は、そのためには「心が優しくないとだめだ」と言っている。

大変に頭のいい人でも、人の悪口ばかりを言っている人がいる。

確かに頭がよければ人の欠点も目につくだろうが、しかし、そこで心を優しくして、人の長所を見ることができるようになれば、自分自身が、さらに大きく成長できるという。

せっかく立派な学歴があるのに、無縁な人になってしまう。

いくら頭が良くても、「残念な人」と言われてしまう。

**自分が相手の長所に目を向ければ、長所をさらに伸ばすことができる。**

他人の長所を探すことで自分は彼らを助け、同時に自分も幸せになれる。

これが本当に頭のいい人かもしれない。

「短所は見つかるもの、長所は見つけるもの」...誰もが、すぐ解る短所は言わずして、長所を一つでも多く探し出し、精一杯褒めてあげる、そんな行動を常とすれば、きっと、タバコの本数も減るに違いない。